

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成22年3月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170200810
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生
事業所名	グループホーム 蔵
所在地	〒001-0922 札幌市北区新川2条10丁目1-35 (電話) 011-769-5250

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価確定日	平成22年3月8日

【情報提供票より】 (22年1月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14 年 1 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤 1 人, 常勤換算	13.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~42,000 円			
その他の経費(月額)	光熱費 23,000円 暖房費(11月~3月) 6,000円			
敷 金	有 ( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	340 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 1月29日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	5 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	60 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ごう在宅クリニック、さくら歯科クリニック、札幌デンタルクリニック
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、「認知症高齢者がその人らしく生きるためには」その先代から引き継がれた想いを力の限り「蔵」に注ぎ込み、人との絆を大切に真正面から人と向き合い、様々な課題を克服しながら今日の運営に至っている。取り組みが実現している場面でも、また一つ目標を掲げ介護サービスに邁進する姿は職員に対し牽引役となり目指す姿となっている。職員は、利用者の想いに心を寄せながら介護のプロとして生活を共にし、チームケアをもって利用者の心の安定やその人らしい生活を支えている様子が窺える。法人合同の定期的レクリエーションやフリープランを取り入れた個別の外出支援、変化をつけた食の提供、地域との相互協力により豊かな生活が築かれている点も特徴の一つである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価(自己評価または外部評価)で挙げた「他のサービスの活用支援」については、本人の意向や必要性に応じて他のサービスに繋げており、「同業者との交流を通じた向上」では同業者間と連携を図り、目的を有しながら取り組みが進められるなど改善状況に至っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義やねらいについて職員全員が理解しており、職員一人ひとりが項目に向き合い、気がついた点への記入や合い話し合いを行ないながら纏められている。介護への取り組み方やサービスの実践状況を丁寧に振り返っており、現状を把握することによる問題の意識化や見極めとなっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の運営にあっては、地域の理解と支援を得るための貴重な機会としても捉え、メンバーから率直な意見をもらい、事業所サービス向上に具体的に活かす取り組みを積極的に進めている。地域とのつきあいや地域貢献のありかたについて検討課題として挙げ、その結果、町内回覧板の利用協力の申し出や地域住民による様々な支援が実現し、事業所公開日、介護相談窓口の設置などにも至っている状況である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所通信で利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えている。家族の立場や本人を共に支える関係性を大切に考え、信頼関係を保てるような環境や機会を築いている。内・外部の苦情相談窓口設置の他、3ヵ月に一度の家族会運営や案内状等に要望欄を設けるなど意見聴取に取り組み、表出された内容を家族ノートに記し職員間で共有を図ると共に運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りを地域住民と協力し合いながら進められ、利用者の豊かな生活に結実している様子が窺える。地域の一員として新年会出席や見守り隊、清掃活動への参加、近隣の方々から物品の寄贈やボランティア訪問、事業所行事への参加があるなど、町内会のバックアップも得ながら地域との連携を深めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は平成20年に見直しを行い全職員で話し合いを持ち策定されている。地域の中で生活し支えるケアについて表明しており、「地域に根ざし、人と人、共に生きて共に暮らす」の法人理念の他、やまと・なでしこ館独自理念を合わせて標榜し展開している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践に結びつけるための取り組みでは、サービス提供場面で理念が反映できるよう職員間で確認する機会を確保している。ミーティングやカンファレンスで、事業所が目指す内容を意識し、具体的なケアについての意見統一や話し合いを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物先でのふれ合いなど日常的な交流の他、清掃活動、新年会の町内会行事への参加や事業所の行事に地域の方の参加を得るなど、役割や活動を通じて支え合う関係性が深まっている。今後は更に事業者の力を活かした介護相談を推進する考えを示している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいについて全職員が理解を持ち、職員が個々に記入した自己評価に基づき話し合いを持ち、現状の把握や課題の抽出を行い纏められている。評価で挙げた取り組むべき内容は、職員間で共有し目標達成に向け日々努力されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的開催し、評価結果や事業所の現況報告を始め、今後の活動方針なども説明し意見交換がされている。会議でのアイデアが新たな地域密着の取り組みに繋がっており、実際のサービスに触れる中でのモニターも実施され、サービス向上に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当者とは、管理者会議での指導はもとより、事業所で発生した案件について相談し、バックアップを得て問題解決に当たるなど協働する関係性が窺える。地域包括センターの担当者とは運営推進会議を主として連携する関係となっている。	○	事業所は、更にサービスの向上を進める上で、区や地域包括センターの担当者に実際のサービス提供場面にふれてもらう機会や意見交換の場を設けるなど、専門的見地での評価やアドバイスを積極的に受けていきたい考えを示しているため、実現に向けた取り組みに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回家族通信を発行し、利用者の日常の暮らしぶりやエピソードを盛り込みながら事業所全体及び個別の様子を発信しており、金銭出納については家族へ定期的に書面で報告している。健康管理情報は利用者個々の状況に応じて随時報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談しやすい雰囲気作りに配慮すると共に、面会表・手紙での要望欄の工夫や家族会を設置し、意見を表出する機会や環境、体制を確保している。内・外部に苦情相談機関を設け、対応の流れを文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者との馴染みの関係作りが質の確保で重要であると理解し、法人内異動を最小限に抑えている。また、職員の向上心を応援することを大切にし、職員を育てる取り組みや個人面談を実施して職員定着に努力している。やむを得ない離職時は利用者の心情に配慮をした対応策を講じている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は研修係が中心となり、職員から学習を深めたいテーマを募り企画されており、法人合同（4ユニット）で年3回実施されている。外部研修は、回覧式で研修案内を周知する方法を採りながら、職員の習熟度に応じて個々に促し、職員全員が段階的に受講できるよう進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	組織ネットワークへの加盟や管理者会議等のネットワークを通じ、研修や会議の場での意見交換や情報交換を行っている。また、21年度は同業者間と相互の訪問見学や意見交換を実施し、他を知る事による自己サービスの気づきに繋げ、サービス向上に結び付けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談を受けた時点より、本人・家族との信頼関係を大切にし、自宅や病院等、本人の居る先への訪問や事業所見学、体験入居など個別対応をしながら利用開始に向け取り組んでいる。本人の意向や生活歴の情報を収集し、初期対応やサービスに活かし安心感を得てもらおう努力を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴や特技などから力を発揮できる様々な場面作りをさりげなく行い、共に行動しながら支え合う関係性を構築している。利用者からは日々労いの言葉がけがあり、昔の習慣や価値観、懐かしい地域の様子など教えてもらう場面も多く暮らしの中でお互いを分かち合い過ごしている様子が窺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや心情に立って考えており、日々のケアの中で得た気づきを職員間で共有し検討を行っている。利用者の言動や仕草に潜在する本意を汲み取りながら、日常のケアサービスに結びつけ生活全体が本人本位となるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りやミーティング、カンファレンスで意見討議し情報を蓄積した内容をサービス担当者会議で議論を尽くし、家族や医療関係者の意見を盛り込み計画を策定している。家族連絡ノートでの情報や療養管理指導書なども留意しながら、利用者がどのように暮らしたいかなどを含め多角的な視点で検討をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は長期6ヶ月短期3カ月の期間を明示し、期間に応じ、また状態変化時に都度見直しを行っている。毎日の個人記録には計画に対する評価や特記事項を記載できる欄も設け、ミーティングは日誌に記し、申し送りは医療に関する支援等の変更が確実に実行できるシステムを整えており、アセスメントやモニタリングを日々の業務の中でも実施できる方法も採りながら計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算による医療面での負担軽減や本人・家族の状況に応じ通院支援を行っている。同母体組織の事業所4ユニット合同企画の定期的なレクリエーション参加支援や本人の望む過ごし方を職員が一对一等で支援するフリープランなどニーズを積極的に引き出す取り組みが実現している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師は職員として配置し健康管理による医療活用支援と健康面のケアマネジメントの充実を図っている。協力医療機関による内科・歯科の往診や24時間相談できる医療体制を整備し、必要時や希望の外来受診は家族の協力も得て関係者間で受診内容の共有を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対応した医療連携体制の指針書に看取りに関する方針を生命倫理的内容を盛り込み明示しており入居契約時に説明している。重度化等に移行した場合は、家族・医師・事業所が話し合いを持ち、状況に応じた段階的合意形成を図り方針を打ち出している。家族会や職員研修の場で事業所方針の共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明書に個人情報の取り扱いについて明示し、記録の管理等に留意している。利用者尊重やプライバシー保護について職員教育や指導を徹底し、日常の何気ない声かけや対応について都度振り返り、尊厳が守られているかなどを確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子から可能な限り本意を汲み取り、その場面ごとにどのように過ごしたいのかを見極めながら、職員間で連携し合い望む過ごし方を支援している。職員全員が日々のその人らしい暮らしについて意識を持ち、職員主導や業務中心とならないよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下拵えや後片付けなどの作業は、無理強いにならぬよう気配りし、利用者の意欲を引き出しながらかしに行っている。好みの料理や行事食、出前寿司、戸外での焼き肉、流しそうめんなど季節を味わい変化を取り入れて、食の楽しさを工夫し支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を目安に曜日を設定しているが、利用者の希望や状況により、シャワー浴や清拭も含めて柔軟に対応している。入浴中の対話を大切に、入浴拒否が見られる場合は誘導の工夫を重ね、一人ひとりに応じて安全で楽しい入浴になるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野や役割を見出し、気持ちや力を活かした場面作りに取り組んでいる。家事の手伝いを始め、家庭菜園や除雪、縫物、更には紙芝居や生け花、月2回法人合同のレクリエーションなど、個々の充実感や楽しみ、気晴らしに繋がる支援を工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物先、ベランダでの茶菓のひと時や散歩の中で町内清掃の役割も担う等、地域との関わりや戸外で過ごす重要性を利用者の意向と結びつけた外出を支援している。少人数や個別のフリープラン、季節感や五感刺激を考慮した初詣や花見、動物園見学旅行などを企画し、外出支援の充実に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関とユニットの出入り口は、夜間のみ防犯のため施錠している。職員は鍵を掛ける事の弊害を認識し、利用者の外出の意向を察知した場合は、個々の思いを尊重し時を止めずに一緒に外へ出かけるなど同行支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導の自主訓練のほか、年に1度消防署の協力を得て、消火・避難誘導、自動通報などの訓練を実施し地域住民の参加を得ているが、夜間を想定した実践的訓練について実施すべき課題として挙げられている。職員は救急救命講習を受講している。	○	災害はいつどの時間帯で発生するか分からず、夜間帯においても利用者の安全確保や避難誘導の習得や訓練が必要である。実践的な夜間想定訓練の早期実施と飲料水や食料など災害備蓄品の確保も合わせ災害対策の強化に努められるよう期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員作成の献立は、栄養バランスを留意し、年2回栄養士の指導を受け、塩分や食事量の調整を行っている。水分・食事摂取量を記録し、利用者の嗜好や嚥下状況に応じてトロミや刻み、粥食等の食事形態を変更し、場合により高カロリー補助食品を使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくゆったりとしており、清潔に保たれている。リビングや廊下には、植物や季節飾り、利用者の作品や写真が美しく装飾され、心和む空間が作られている。食卓、ソファースペースや畳ベンチが設置され、利用者それぞれの寛ぎの場を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの調度品が持ち込まれ、本人、家族の意向を尊重して個性的な使いやすい設えに配慮している。身体機能に応じポールや手すりを取り付けられ、安心感のある落ち着いた居場所になっている。また利便性のある大型のクローゼットが設置されている。		

※  は、重点項目。